

成 果 の 公 表

30年度	ウラン廃棄物に関する教育及び炉規法等動向調査	顧客が管理するウラン廃棄物の管理従事者に対して炉規法等に定める管理教育を行うとともに、炉規法等の法改正や原子力規制委員会の動向等を調査し、報告した。
	可搬型焼却灰除染設備の除染性能実証試験コンサルティング	顧客先が進める可搬型焼却灰除染設備について、除染性能実証試験の結果を評価し、顧客先へ報告した。
	輸送路(国道114号線)における通信不感区域対策工事に関する調査業務	顧客先が進める福島県内の国道沿線における通信不感区域で進める復旧工事で放射線管理業務及び電離則に基づく特別教育を実施した。
	国道288号線沿線における不感区域対策工事に関する調査業務	
	電離則に基づく特別教育に関する委託業務	
	バーク除染に関する基礎試験	バーク除染に関する基礎試験を行い顧客先へ報告した。
	檜葉町仮設場復旧等工事に伴う放射線管理	檜葉町における仮設場の復旧工事を行う顧客先に放射線管理の業務を請負い実施した。
	研究炉等の廃止措置困難事例に関する調査	日本国内で、廃止措置段階にある又は廃止措置の完了した研究炉等について、除染又は解体のために技術的な困難が認められた事例、除染又は解体のために特に大きな人的、時間的又は経済的資源を投入した辞令、廃止措置段階で発生する放射性又は非放射性の廃棄物について、処理・処分状の技術的困難に関する報告辞令、その他、廃止措置に関する困難事例を調査し、顧客先へ布告した。
	既存施設の廃止措置における放射性飛散微粒子挙動に関する情報整理	既存施設の廃止措置における放射性飛散微粒子挙動に関する情報を整理し、顧客先へ報告した。
	トンネル掘削工事により発生する放射性物質等を含む土壌の取扱いに関する検討	放射性物質等を含んだ土壌が搬出された場合の適切な取扱いのあり方を検討して顧客先へ報告した。
	除染講習会(現場監督者コース)	顧客先が実施する除染業務従事者に対する講習会に講師を派遣した。
除染講習会(業務管理者コース)	顧客先が実施する除染業務従事者に対する講習会に講師を派遣した。	
廃棄物処理事業に関する調査	研究施設等廃棄物の処分事業の処分施設立地活動の状況を調査するとともに、立地活動に関する情報を調査し、顧客先へ報告した。	

29年度	除染業務講習会(現場監督者コース)	顧客先が実施する除染業務従事者に対する講習会に講師を派遣した。
	除染業務講習会(業務管理者コース)	顧客先が実施する除染業務従事者に対する講習会に講師を派遣した。
	「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」動向調査	顧客が管理するウラン廃棄物の管理従事者に対して炉規法等に定める管理教育を行うとともに、炉規法等の法改正や原子力規制委員会の動向等を調査し、報告した。
	ため池除染に係る放射線教育	顧客先が福島県内で進めるため池等の除染作業で、作業従事者に対する放射線管理の知識、関係法令、放射線測定の実技教育を行った。
	ウラン廃棄物に係わる管理教育及び原子力規制動向調査	顧客が管理するウラン廃棄物の管理従事者に対して炉規法等に定める管理教育を行うとともに、炉規法等の法改正や原子力規制委員会の動向等を調査し、報告した。
	研究施設等廃棄物の共通的な放射能評価方法構築のための検討	試験研究炉の主要な構造材である炭素鋼、アルミニウム合金、コンクリート類及び黒煙について、実試料のサンプリングにより放射化各種分析を行い、放射化計算による放射能評価結果と比較し、顧客先へ報告した。
	中間貯蔵施設における通信不感区域等対策の調査・検討業務に関する委託業務	顧客先が進める福島県内の中間貯蔵施設における通信不感区域の工事における地域において、放射線管理に面からアドバイスを行うとともに、周辺の空間線量率の測定等の測定を行った。
	衝撃波に対する高性能フィルターの挙動及び水素爆ごうに関する調査	衝撃波に対する高性能エアフィルターの挙動及び水素爆ごう試験に関する文献の収集・調査を行い発注元へ報告した。
	研究施設等廃棄物の処理・処分事業の推進に関する委託調査	研究施設等廃棄物の処分事業の処分施設立地活動の状況を調査するとともに、立地活動に関する情報を調査し、顧客先へ報告した。
	輸送キャスクの廃止措置に係る海外事例の情報調査	顧客先が進める使用済燃料の輸送キャスクの廃止措置を進める上で、海外の輸送キャスクの解体実績を調査し、顧客先へ報告した。
	コーラルのセシウム吸着特性試験	セシウム137を使って、コーラル(貝化石微粒子)の吸着特性、化学組成、比表面積等の測定を実施して報告書を作成した。結果は顧客へ報告した。汚染廃棄物の流失阻止、飛散防止にコーラルの微粒子が寄与できることを示した。
	汚染廃棄物減容処理に係るコンサルティング	山林や田野等を汚染した放射性物質への対策を考慮し、技術的対応策を計画する。また汚染廃棄物からの除染を計画し汚染廃棄物減容の技術検討を計画する。
原子力施設廃止措置業務への複合現実感システム等の適用条件の検討	顧客が進める原子力施設廃止措置業務への複合現実感システムの適用の検討のため、原子力廃止措置に関する情報及び原子力施設を対象とした廃止措置への複合現実感システムに関する適用などについて取り纏め報告した。	

28年度	放射性セシウムふき取り試験(2)	放射性セシウムの溶液をタイル面に塗布、乾固させて、ナノ白金粒子を塗布したマスク布で吹きとった。その後、一定時間後にセシウムはナノ白金粒子と反応し、着色する事を実験で確認した。今後の放射線の汚染確認の可視化判定に使用できるか否かの先駆けの実験として顧客へ報告した。ランデック成果報告会で報告した。
	廃棄物ドラム缶輸送車両の線量率評価	放射性廃棄物の輸送車両の線量率評価を行い顧客先に報告した。
	バックエンド対策の検討に係る調査	既にバックエンド対策を実施しているベルギーとチェコについて、どのような資金確保策をもって展開しているか、バックエンド費用確保における国の考え方、制度、法律、予算規模等について取り纏め顧客先へ報告した。
	バックエンド技術の検討に係る調査	顧客先が進めているバックエンド技術が体系的に整理されている技術資料について、追加すべき技術や最新の情報を調査し、顧客先へ報告した。
	除染業務講習会(現場監督者コース)	顧客先が実施する除染業務従事者に対する講習会に講師を派遣した。
	原子力関連業務従事者研修	顧客先が実施する放射線業務従事者に対する講習会に講師を派遣した。
	除染講習会(業務管理者コース)	顧客先が実施する除染業務従事者に対する講習会に講師を派遣した。
	廃止措置に係る海外状況調査	廃止措置を考慮した設計及び廃止措置に際しての放射性廃棄物発生量の最小化の設計段階からの考慮について、主要国における原子力施設に対する規制上の要求及び国内事業者の検討状況を整理するとともに、原子炉施設の解体に係る安全確保に関する主要国の規制及び国内外の最新の解体技術等の事例を整理し、顧客先へ報告した。
	マスク試験実施計画書(ふき取り試験)その1	放射性セシウムをタイル面に糊塗して凝固させた。この固化セシウム含有物をタイル面からふき取り布(マスク布材)でふき取り、ふき取り性能を調べた。残留セシウムをγ線スペクトロスコープで放射線測定してふき取り性能を評価した。成果を顧客へ報告した。またランデック成果報告会で結果を報告した。
	研究施設等廃棄物の処理・処分事業の推進に関する委託調査	研究施設等廃棄物の処分事業の処分施設立地活動の状況を調査するとともに、立地活動に関する情報を調査し、顧客先へ報告した。
	試験研究用原子炉での共通的な放射能評価方法構築のための検討	試験研究用原子炉での放射能評価方法の検討として、実試料をサンプリングし、放射化各種分析を行い計算による放射能評価結果と比較する。また、トリウムで汚染した廃棄物の非破壊外部測定方法の検討を行い顧客先へ報告した。
	光合成細菌による放射性セシウム挙動解明試験	光合成細胞を放射性セシウム含有の処理灰に浸透させて、放射性セシウムの変化を調査した。約6カ月の連続減衰データを取得した。減衰の見られる結果および減衰の観察されない事例も確認した。結果は顧客へ報告した。
	舗装面における放射性セシウム沈着量の詳細な分布状況評価に係る測定業務	福島県富岡町において舗装面における放射性セシウム沈着量の詳細な分布状況の評価するため、貸与を受けた可搬型ゲルマニウム検出器を用いて、In-situ測定を実施し、発注元へ報告した。
福島県の避難指示区域内における工事等に関する調査業務	顧客先が進める福島県内の避難指示区域における通信不感区域の工事における地域において、放射線管理に面からアドバイスを行うとともに、周辺の空間線量率の測定、放射性セシウム濃度の測定を行った。	
ロシア原子炉区画陸上保管施設建設協力事業に関する事後評価業務	日本が資金面で協力したロシア原子炉区画陸上保管施設建設協力事業について、妥当性、有効性、効率性、インパクト及び自立発展性のDAC評価5項目について事後評価を行い顧客先へ報告した。	